

次期「兵庫県地域創生戦略」の策定に向けた分析項目（案）

I 県外就業者の第二新卒者対策の促進

1 背景・問題意識

- ・兵庫県の人口転出超過数は減少傾向にあるものの、20代の若者の転出超過数が拡大している。
- ・本県の調査では、県内大学卒業者の約7割が県外企業に就職とされているが、勤務地が兵庫県内であっても、本社が県外に所在する場合、県外企業とカウントされるため、実際に県外就職した者の人数が把握できていない
- ・また、新卒者の約3割が3年以内に転職すると言われているが、兵庫県のデータがなく、県外就職者のどのくらいが第二新卒となるのか把握できていない。
- ・このため、①県内に居住する大学卒業者のうち、就職のため県外流出した者の割合の把握、②大卒3年以内に離職し、兵庫に転居してきた者の現状等を把握し、必要な対策を検討したい

2 想定ケース

【ケース1】

兵庫県に居住し、平成26年3月に大学を卒業、兵庫県を出て県外で就職したが、労働条件等が悪かったことから退職し、兵庫県内に戻り、現在求職中

【ケース2】

兵庫県に居住し、平成26年3月に大学を卒業し、兵庫県を出て県外で就職したが、労働条件等が悪かったことから退職し、兵庫県に戻ってきて就職し、現在の仕事に満足している者

→兵庫県に居住し、大学を卒業した者のうち、

- ①県外に転出して就業した者の割合
- ②①の者のうち、3年以内に初職を退職し、兵庫県にUJターンした者の割合を把握
- ③②の者のうち、UJターンに満足している者の割合を把握するとともに、求職に当たりどのような職種を希望しているかを把握し、本県における第二新卒対策の重要性、東京圏での効果的な就職情報の提供に結びつける

3 利用データ…就業構造基本調査

ア 県内に居住し、3年前に大学を卒業した者のうち県外に流出した者

【3年前に大学を卒業した者の抽出】

- ・4 (1) 就学状況…H26年3月卒業、(2) 学校区分…大学

<問題点>

調査票に大学の所在地の記入がないため、県内大学卒業者を限定できない

【就職のため県外流出した者の抽出】

- ・5 (1) 現在の場所に住み始めた時期…H26年4月以降
(2) 理由…あなたの仕事の都合（仕事につくため）
(3) 以前の居住地…兵庫県
- ・A7 現在の仕事についての時期…平成26年4月以降（5（1）以降）
- ・A16 現在の仕事につく前に別の仕事をしていない

イ 3年以内に初職を退職し、他の都道府県から兵庫県内に転居した者

※第2新卒者

【3年前に大学を卒業した者の抽出】…上記と同様**【3年以内に最初の仕事を辞め、他の都道府県から兵庫県内に転居した者の抽出】**

- ・調査区符号が兵庫県
- ・ 5 (1) 現在の場所に住み始めた時期…H26年4月以降
(2) 理由…仕事の都合（転勤の除く）
(3) 以前の居住地…他の都道府県
- ・ C1 前職を辞めた時期…平成26年4月以降（5（1）以前）
- ・ D1 前の仕事が最初の仕事
- ・ D2 最初の仕事についての時期…平成26年4月以降

ウ 3年前に大学を卒業した者のうち、引き続き県内に在住している者の抽出**【3年前に大学を卒業した者の抽出】**…上記と同様**【県内在住者】**

調査区符号…兵庫県

- 5 (1) 居住地…出生時から 若しくは 平成26年3月以前

4 データ集計・分析

- ① 大学卒業後、県外に流出した者の割合
3ア / (3ア + 3ウ)
- ② ケース1 UJターン者が希望する職種及び県内定着者との比較
上記3のイの者のうち
 - ・ C3 の前職を辞めた理由が、「収入が少なかったため」「労働条件が悪かったため」「自分に向かない仕事だった者」
 - ・ 7 ふだん仕事をしていない者
 - ・ B1 収入になる仕事をしたいと思っている者
 - ・ B3 の職種毎に集計し、比較
- ③ ケース2 兵庫県にUJターンし就職した者の満足度
 - ・ 上記3のイの者
 - ・ 7 ふだん仕事をしている者
 - ・ A11 この仕事を続けたい、この仕事の他にも別の仕事もしたいを選んだ者
- ④ ③について、同年に大学を卒業し、就職した者との比較
 - ・ 4 (1) (2) 平成26年3月に大学を卒業
 - ・ 7 ふだん仕事をしている者
 - ・ A7 平成26年4月以降に仕事についた者
 - ・ A11 この仕事を続けたい、この仕事の他にも別の仕事もしたい
 - ・ A16 現在の仕事につく前に別の仕事をしていたことがない
を選んだ者と比較